

インフルエンザ菌 b 型 (Hib) 予防接種の 接種意志に影響を与える要因

イワシタ ユウコ タケムラ シンジ
岩下 裕子* 武村 真治^{2*}

目的 インフルエンザ菌 b 型 (Hib) 予防接種の接種意志および自己負担料の支払い意思額 (WTP) に影響を与える要因を明らかにし、接種率向上のための方策を検討する。

方法 東京都町田市内の保育園児の保護者1185人に、保育園を通じて調査票を配布、回収し、有効回答数549人 (46.3%) を解析した。調査票に Hib に関する情報を提示した上で、接種意志、WTP、Health Belief Model (HBM) の因子 (脆弱性、重大性、有効性、障害)、属性を設問し、変数間の関連を分析した。

結果 接種意志がある者の割合は50.3%、WTPの平均値は2,581円で、約8割が3,000円以下であった。「認知された脆弱性」、「認知された重大性」、「認知された有効性」の値が高い者、「費用負担感」の値が低い者の方が接種意志があり、WTPが高かった。また年間所得の高い者の方がWTPが高かった。

結論 接種率を向上させるためには、HBMに基づいた情報提供、特に予防接種の有効性の認知に影響を与える情報 (効果、副作用等) を中心に提供する必要があること、所得が低い世帯に配慮して、現状の自己負担料の軽減措置を行う必要があることが示唆された。

Key words : インフルエンザ菌 b 型 (Hib) 予防接種, 接種意志, 自己負担料, willingness to pay (WTP), Health Belief Model (HBM)

* 東京都多摩立川保健所企画調整課企画調整係

^{2*} 国立保健医療科学院公衆衛生政策部地域保健システム室

連絡先: 〒190-0023 東京都立川市柴崎町 2-21-19

東京都多摩立川保健所企画調整課企画調整係

岩下裕子